

# デジタルドキュメント(4)

高久雅生

2014年5月8日(木)3・4時限

# 本日のお品書き

- (前回の質問・要望への返答: 15件)
- (前回の復習)
- 学術分野のデジタルドキュメント(続き)
  - オンラインジャーナル以外の文献種別: Eブック, テクニカルレポート, プロシーディングス
- 電子書籍
  - 電子書籍とは?
  - 電子書籍のいま?
  - 歴史
  - 事例とともに: 利用と閲覧環境、コンテンツ

# 質問・要望へのお返事 (1)

- レポートはオールCで単位来ますか？
- 第1回レポートがB評価だったが、このあとのレポートで挽回できるか？
- 差し支えない範囲で評定の基準を教えてください。

- ✓ 1回分の評価が厳しかったとしても、あとからのレポート課題で挽回することは十分可能です。
- ✓ オールCでも単位は出します。昨年度に不合格としたのは未提出レポートによる受講生のみ。
- ✓ 基本的には、レポート評価平均点と出席点を総合的に評価します。

# 質問・要望へのお返事 (2)

- 今回のレポート評価が芳しくなかったため、挽回を図りたいのですが、あと何回ほどレポート提出はありますか。

初回に述べたとおり、全部で4～5回を予定しています(去年は4回)。

# 質問・要望へのお返事 (3)

- 今回のレポートに対し、再提出は認められますか。「具体的に」といった要件をきちんと満たしたレポートを再提出したいです。

再提出は拒まないで、受け付けます。ただし、当該課題の評価結果には変更はありません。

再提出である旨を明記した上で、遅れ提出と同様、7D208研究室前の封筒に提出すること。

再提出分も、他のレポート返却時にあわせて返却します。

# 質問・要望へのお返事 (4)

- レポートの返却は、他人の評価が分からないような形式にしたほうが良いと思います。

了解しました。時間がかかるのがネックなのですが、一回、ためしてみましようか（次回の返却時）。

# 質問・要望へのお返事 (5)

- 前の課題のために読んだ参考文献ではスキャンした論文をデジタルドキュメントと呼べるかどうかは微妙であると書かれていたのですが、そこら辺の定義はあいまいなのではないでしょうか。今回の例8, 9, 10ではそのような例が挙げられていたため気になりました。

初回に話したとおり、定説は無い、というのが結論です。もちろん、より狭い定義（スキャンはデジタルドキュメントとしない）を用いることはアリだと思います。ただし、その場合、古書籍の電子化本などの流通・利用過程を扱えなくなるので、本講義ではその定義を採用しません。

# 質問・要望へのお返事 (6)

- デジタルドキュメントないし、Web上の文献を参考書籍として挙げることを情報の信頼（正しい情報が載っているとは限らないという意味で）の観点から認めない授業もありますが、オンラインのみでしか発行されないジャーナルがもっと普及したとして、それが改善されると思いますか？

メディアや情報の信頼性と、オンライン情報源であるか否かは別なので、当然、その点に齟齬があれば、改善されるものと思われます。



# 質問・要望へのお返事 (7)

- 職業研究者以外が成果を出すのは職業研究者は嫌がりそうですね。

うーん、答えづらい話ですが。建前でいえば、科学研究はフェアな土台があるので、もちろん誰であれ、成果をあげることは歓迎されるわけです。ただし、ある学説の「パラダイム」といった考え方から乖離した説はなかなか受け入れられづらい、という議論はあります。科学哲学の有名な考え方です。

Ref. トーマス・クーン. 科学革命の構造. 中山茂訳. みすず書房, 1971, 293p.

# 質問・要望へのお返事 (8)

- デジタルドキュメントとしての論文を見たことは1, 2回しかありません。それもレポートを書くときに参考にした、という程度です。今日の講義では論文の付録資料というのが気になりました。図表、ビデオ、音声が加われば、論文に興味を持つ人が増え、小中高の教育の分野に使ったり、国民全体の「知」のレベルを上げることができるのではないのでしょうか？

はい。付録資料は学術論文誌が提供するのみならず、外部のサイエンスライターなどが提供するサービスなど、プラスαを付与するサービスもあります。

Ref. 「知識インフラ」(第4期科学技術基本計画)

ライフサイエンス 新着論文レビュー. <http://first.lifesciencedb.jp/>

JoVE: Peer Reviewed Scientific Video Journal. <http://www.jove.com>

# 質問・要望へのお返事 (9)

- 授業中に話されていた出版社が倒産してしまったときに、データが閲覧できなくなるということに対して、現在、どのような措置が取られているか気になる。

学術分野では提供する出版社と連携して納本、長期保存するための国際的な枠組み(CLOCKSS)を作っているところです。さらに国内の納本制度も法改正を通じ、昨年から実施開始しています。このあたり、電子書籍の実例とともに来週以降に紹介できればと思います。

Ref. オンライン資料収集制度(eデポ).

[http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/online\\_data.html](http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/online_data.html)

# 質問・要望へのお返事 (10)

- 出版社に移管された著作権は出版社が倒産したら著者に返されますか？

著作権について、著作財産権は基本的に譲渡された財物なので、倒産したとしても、著者に返却されるわけではありません。実務上は非常に厄介な存在です。

Ref. “Orphan works”

# 質問・要望へのお返事 (11)

- 著作権を委譲することで、著者はなにか損をしたりする可能性はありますか？

著者自身が書いたものを書き直して転載したり、図表を使いまわすことも、許諾を得る必要が出てきます。

# 質問・要望へのお返事 (12)



- 引用されたことを通知する機能を見て思ったのですが、雑誌の引用数を図るインパクトファクター以外に、研究者個人の引用数を提供するような指標やサービスはあるのでしょうか。

Impact Factor<sup>®</sup>はトムソン・ロイター社による独占的な指標です。雑誌論文を対象とした引用⇔非引用関係の抽出、インパクトファクターなどの指標値算出は同社に限らず、多くのデータベース企業が手がけています。2000年代のオンラインジャーナル普及にともない、引用数だけでなく、ダウンロード数等のさまざまな評価指標を用いる動きも出ています。

Ref. Web of Science. <http://webofknowledge.com>

Scopus. <http://scopus.com>

Google Scholar Citations. <http://scholar.google.com/>

指標例: H-Index, Altmetrics, etc.

# 質問・要望へのお返事 (13)

- 論文の売り買いなどはいま現在行われていますか？ Amazonのように論文を書籍やデータとして販売しているサイトがあるのか気になりました。

オンラインジャーナルも、基本的には書籍などと同じように売り物です。オンラインジャーナルのプラットフォームも、機関購読や年間契約による購買のほかに、論文一本単位によるPay per view方式の販売機能を持っていることも特徴の一つです。Eブックに関しても同様です。

# 質問・要望へのお返事 (14)

- 海外のオンラインジャーナルはほとんど有料であるが、国内においては無料なのか。また、無料ならば、有料にすることで機能の向上は期待できるのか。

出版にはなんらかのコストがかかり、これらをどのように、誰が負担するかが課題です。商業出版社・学協会ともに、購読利用者の負担により、これをカバーしようとしています。一方で学術分野における論文情報はこれを追跡することが必須であるため、現状では、出版社の寡占化が進み、一定のキープレイヤー以外の参入は難しくなっています。さらに、国内には大規模な商業出版社が無く、市場規模も小さいため、利益を回収しつつ、新機能の開発に投資するインセンティブも低くなっています。おそらく、国内のベンチャー市場が小さいこととほぼ同様と思われます。



# 質問・要望へのお返事 (15)

- テクニカルレポートと技術論文に違いはあるのか。

いくつかの側面で違いがありますが、主に、慣習/制度面での違いと、それを支える運営母体の違いが大きいようです。(今日の資料で補足)

# （前回の復習 = ふりかえり）

- 学術分野のデジタルドキュメントの実例
- オンラインジャーナルの様態
  - ランディングページ
  - 全文ファイル (PDF, HTML)
- 事例 (各社プラットフォーム)

# 学術分野におけるデジタルドキュメント

## — 雑誌論文以外に流通する文献 —

- Eジャーナル
- Eブック
  - 専門書
  - 事典
  - レファレンスブック
  - データシート
- 技術報告 (テクニカルレポート; Technical report)
- 会議論文集 (プロシーディングス; Proceedings)
- 口頭発表資料
  - スライド
  - ポスター
- 教材

# Eブックの例

John Domingue, Dieter Fensel, James A. Hendler, Eds. "Handbook of Semantic Web Technologies". Springer, 2011, 1056p. (eISBN:978-3-540-92913-0)



[Home](#) • [Contact Us](#)



2011

## Handbook of Semantic Web Technologies

**Editors:** [John Domingue](#), [Dieter Fensel](#), [James A. Hendler](#)

ISBN: 978-3-540-92912-3 (Print) 978-3-540-92913-0 (Online)

### Table of contents (22 entries)

◀ Page 1 of 2 ▶

#### Front Matter

» [Download PDF](#) (136KB)

Pages i-xx

#### Foundations and Technologies

Reference Work Entry

##### [Introduction to the Semantic Web Technologies](#)

John Domingue, Dieter Fensel, James A. Hendler

» [Download PDF](#) (788KB) » [View Reference Work Entry](#)

Pages 1-41

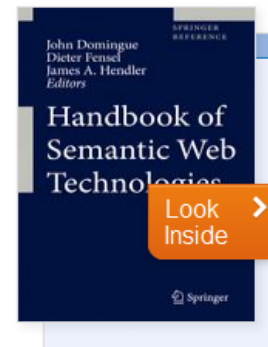
Reference Work Entry

##### [Semantic Web Architecture](#)

Andreas Harth, Maciej Janik, Steffen Staab

» [Download PDF](#) (696KB) » [View Reference Work Entry](#)

Pages 43-75



Look Inside

#### Share



#### Other actions

» [About this Reference Work](#)

<http://dx.doi.org/10.1007/978-3-540-92913-0>

# Eブックの例(事典)

“Encyclopedia of Library and Information Sciences”, Third Edition. Taylor & Francis, 2012.  
(eISBN:978-0-8493-9711-0)

Taylor & Francis Online  
Access provided by Tsukuba University

Register | Sign in | Mobile | Librarians | Authors & Editors | Societies

Home > Reference Works > Encyclopedia of Library and Information Sciences, Third Edition

**Encyclopedia of Library and Information Sciences, Third Edition**  
DOI: 10.1081/E-ELIS3  
ISBN: 978-0-8493-9712-7; eISBN: 978-0-8493-9711-0  
Last Updated: 10 Aug 2012

Subject: Information Science, Librarianship,  
Publisher: Taylor & Francis

Related Articles  
Most read | Most cited  
There are no chapters to display.

By Title | By Contributor | By Date

Choose an action ▶

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V | W | X | Y | Z

Academic Librarianship  
Barbara B. Moran, Elisabeth Leonard  
Published: 9 Dec 2009 | Abstract | References | Open URL

View full text  
Download full text  
Full access

Academic Libraries  
Susan Carol Curzon, Jennie Quiñónez-Skinner

<http://www.tandfonline.com/doi/book/10.1081/E-ELIS3>

# 会議論文集の例

“Proceedings of the 28<sup>th</sup> International Conference on Data Engineering”, 2012, Arlington, Virginia USA, IEEE. (ISBN: 978-0-7695-4747-3)

IEEE computer society  
Japan Consortium - Tsukuba University

Home Digital Library Home Search Resources Institutional and Library Resources Newsletter About the Digital Library

> ! > ICDE > 2012 > 2012 IEEE 28th International Conference on Data Engineering

> Abstract - Viewing the Web as a Distributed Knowledge Base

Quick Search This Publication Digital Library Advanced Search

2012 IEEE 28th International Conference on Data Engineering  
Arlington, Virginia USA  
April 01-April 05  
ISBN: 978-0-7695-4747-3

**Table of Contents**

- Papers
  - [Front cover] (PDF)  
pp. C1  
ABSTRACT PDF OvidLinkSolver
  - [Title page I] (PDF)  
pp. i  
ABSTRACT PDF OvidLinkSolver
  - [Title page III] (PDF)  
pp. iii  
ABSTRACT PDF OvidLinkSolver
  - Copyright Page (PDF)  
pp. iv  
ABSTRACT PDF OvidLinkSolver
  - Table of contents (PDF)  
pp. v-xvi  
ABSTRACT PDF OvidLinkSolver
  - Message from the Program Chairs and the General Chair (PDF)  
pp. xvii-xviii  
ABSTRACT PDF OvidLinkSolver
  - Conference Organization (PDF)  
pp. xix-xxii  
OvidLinkSolver

<http://www.computer.org/csdl/proceedings/icde/2012/4747/00/index.html>

IEEE computer society  
Japan Consortium - Tsukuba University

Home Digital Library Home Search Resources Institutional and Library Resources Newsletter About the Digital Library

> ! > ICDE > 2012 > 2012 IEEE 28th International Conference on Data Engineering

> Abstract - Viewing the Web as a Distributed Knowledge Base

2012 IEEE 28th International Conference on Data Engineering  
**Viewing the Web as a Distributed Knowledge Base** (PDF)  
Arlington, Virginia USA  
April 01-April 05  
ISBN: 978-0-7695-4747-3  
Serge Abiteboul  
Émilien Antoine  
Julia Stoyanovich  
DOI Bookmark: <http://doi.ieeecomputersociety.org/10.1109/ICDE.2012.150>

**ABSTRACT**

This paper addresses the challenges faced by everyday Web users, who interact with inherently heterogeneous and distributed information. Managing such data is currently beyond the skills of casual users. We describe ongoing work that has as its goal the development of foundations for declarative distributed data management. In this approach, we see the Web as a knowledge base consisting of distributed logical facts and rules. Our objective is to enable automated reasoning over this knowledge base, ultimately improving the quality of service and of data. For this, we use Webdamlog, a Datalog-style language with rule delegation. We outline ongoing efforts on the Web dam Exchange platform that combines Webdamlog evaluation with communication and security protocols.

**ADDITIONAL INFO**

**Citation:**  
Serge Abiteboul, Émilien Antoine  
International Conference on Data Engineering

Usage of this product signifies

**This Article**

- PDF
- RSS feed

**Share**

- Email this Article to a friend

**Bibliographic References**

- ASCII Text
- BibTex
- RefWorks Procite/RefMan/EndNote

**Add to:**

- Digg
- Spurl
- Simpy
- Del.icio.us
- Furl
- Blink
- Google
- Y!MyWeb

**Search**

- Similar Articles
- Articles by Serge Abiteboul
- Articles by Émilien Antoine
- Articles by Julia Stoyanovich

<http://www.computer.org/csdl/proceedings/icde/2012/4747/00/4747a001-abs.html>

Cybersecurity.

# テクニカルレポートの例

## NII Technical Reports

National Institute of Informatics  
2-1-2 Hitotsubashi, Chiyoda, Tokyo, 101-8430, Japan  
Print ISSN: 1346-5597  
Online ISSN: 1884-0795

[Japanese Here](#)

[About NII Technical Reports](#)  
[Authors' Page \(Staff Only\)](#)

[2001](#) [2002](#) [2003](#) [2004](#) [2005](#) [2006](#) [2007](#) [2008](#) [2009](#) [2010](#) [2011](#) [2012](#) [2013](#)

2013		
No.	Authors & Title	Published
<a href="#">NII-2013-001E</a>	Kugamoorthy GAJANANAN <i>A Short Tutorial of the Scenario Markup Language</i>	Feb 8, 2013

2012		
No.	Authors & Title	Published
<a href="#">NII-2012-005E</a>	Keiichi Morikuni and Ken Hayami <i>Convergence of inner-iteration GMRES methods for least squares problems</i>	Aug 3, 2012
<a href="#">NII-2012-004E</a>	Michael E. Houle and Michael Nett <i>Rank-Based Similarity Search: Reducing the Dimensional Dependence</i>	Jun 18, 2012
<a href="#">NII-2012-003E</a>	Makoto Kanazawa <i>Almost Affine Lambda Terms</i>	May 25, 2012
<a href="#">NII-2012-002E</a>	Makoto Tatsuta <i>Formalization of Lemma for Adjacent Replacement Paths</i>	Feb 17, 2012
<a href="#">NII-2012-001E</a>	Keiichi Morikuni, Lothar Reichel, Ken Hayami <i>FGMRES for linear discrete ill-posed problems</i>	Jan 12, 2012

2011		
No.	Authors & Title	Published
<a href="#">NII-2011-002E</a>	Yasunori Aoki, Ken Hayami, Hans De Sterck and Akihiko Konagaya <i>Cluster Newton Method for Sampling Multiple Solutions of an Underdetermined Inverse Problem: Parameter Identification for Pharmacokinetics</i>	Aug 22, 2011
<a href="#">NII-2011-001E</a>	Keiichi Morikuni and Ken Hayami <i>Inner-Iteration Krylov Subspace Methods for Least Squares Problems</i>	Apr 04, 2011

2010		
No.	Authors & Title	Published
<a href="#">NII-2010-003E</a>	Makoto Tatsuta <i>Translation of Multi-Staged Language</i>	Jul 20, 2010
<a href="#">NII-2010-002E</a>	Liang Xu, Hideaki Takeda, Masahiro Hamasaki, and Huayu Wu <i>Typing Software Articles with Wikipedia Category Structure</i>	Jul 12, 2010
<a href="#">NII-2010-001E</a>	Shaoying Liu and Shin Nakajima <i>A Decompositional Approach to Automatic Test Case Generation Based on Formal Specifications</i>	Jan 12, 2010

<http://www.nii.ac.jp/TechReports/>

[NII-2009-018E](#) Michael E. Houle, Hans-Peter Kriegel, Peer Kroeger, Erich Schubert and Arthur Zimek  
*Can Shared-Neighbor Distances Defeat the Curse of Dimensionality?* Dec 24, 2009

[NII-2009-017E](#) Nguyen Xuan Vinh and Michael E. Houle  
*A Set Correlation Model for Partitional Clustering* Dec 22, 2009

## Stanford InfoLab Publication Server



[Home](#) [Browse by Year](#) [Browse by Project](#) [Browse by Author](#) [Statistics](#) [Advanced Search](#) [Help](#)  
[Login](#) [Create Account](#)

### The PageRank Citation Ranking: Bringing Order to the Web.

Page, Lawrence and Brin, Sergey and Motwani, Rajeev and Winograd, Terry (1999) *The PageRank Citation Ranking: Bringing Order to the Web*. Technical Report. Stanford InfoLab.

[BibTeX](#) [DublinCore](#) [EndNote](#) [HTML](#)



PDF  
299Kb

#### Abstract

The importance of a Web page is an inherently subjective matter, which depends on the readers interests, knowledge and attitudes. But there is still much that can be said objectively about the relative importance of Web pages. This paper describes PageRank, a method for rating Web pages objectively and mechanically, effectively measuring the human interest and attention devoted to them. We compare PageRank to an idealized random Web surfer. We show how to efficiently compute PageRank for large numbers of pages. And, we show how to apply PageRank to search and to user navigation.

Item Type: Techreport (Technical Report)

Additional Information: Previous number = SIDL-WP-1999-0120

Subjects: Computer Science > Digital Libraries

Projects: [Digital Libraries](#)

Related URLs: Project Homepage <http://www.diglib.stanford.edu/diglib/pub/>

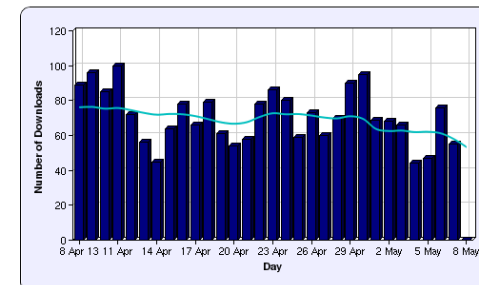
ID Code: 422

Deposited By: Import Account

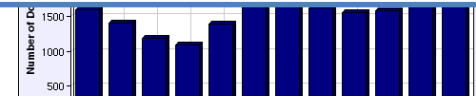
Deposited On: 30 Oct 2001 16:00

Last Modified: 28 Dec 2008 09:56

#### Download statistics



<http://ilpubs.stanford.edu:8090/422/>



# 電子書籍 (1)



# 電子書籍とは？

- 「書籍」とは？
- 「電子書籍」とは？
  - （あいまいな概念...）
  - （様々な言説...）
- 電子書籍のいま
  - 事例

# 書籍とは？

- しよ-せき【書籍】（大辞泉）
  - 書物。本。図書。しよじゃく。
- 書籍（しよせき）（日本大百科全書）
  - 記録、情報の保存・伝達、知識の普及を目的として、文字、絵画、図画、写真などを、印刷または手写した紙葉を繙読しやすいように順序よく綴じ、表紙でくるんだもの。本、書物、図書、典籍、書冊、書策などは同義。
- ユネスコによる「書物の生産および定期刊行物に関し統計の国際的基準を設ける勧告」（1964年）
  - 裏表の表紙4ページをのぞいて、本文が49ページ以上の非定期刊行物をブックBook
  - 5ページ以上49ページ未満の小冊子をパンフレット

# 電子書籍とは? (1)

- でんし-しょせき【電子書籍】《electronic book》
  - 電子化された書籍データ。紙に印刷するのではなく、パソコンや携帯電話、専用の表示端末などにデータを取り込んで閲覧する。文字以外に動画や音声を再生できるものもある。電書。デジタル書籍。eブック。
  - (デジタル大辞泉)

# 電子書籍とは? (2)

- 電子書籍(でんししょせき)
  - 一般的に「電子出版」とはCD-ROMやその他の電子記録媒体に書籍の内容を記録して、販売するパッケージ型の電子出版をさし、「電子書籍」とはインターネット上から書籍データをダウンロードさせたり、サーバーに蓄積された書籍データをオンラインのまま利用したりする、物流を伴わない出版形態をさす。
- (日本大百科全書; 執筆者: 鈴木雄介)

# 電子書籍とは? (3)

- 電子書籍[メディアと社会] electronic book
  - インターネットでダウンロードした文章や画像のデータを、パソコンやPDA(携帯情報端末)、携帯電話などの画面上に表示する書籍形態。
    - 2009年2月にアメリカでアマゾンの電子書籍新端末「キンドル2(第二世代)」が発売されて人気に火がついた。ついでソニーの「ソニー・リーダー・エディション」、キンドルの「キンドルDX」、そして電子書籍のほかゲーム、動画、インターネットが閲覧できる新型の多機能情報端末「iPad(アイパッド)」が発売されて、電子書籍事業の競争は激化する一方である。紙の時代に代わって電子書籍の時代が始まったといわれている。日本でも10年5月に日本語対応の「iPad」が発売された。「iPad」は「iPhone」を大型化し、通話とカメラ機能を省き、高精細な液晶画面を搭載したもので、電子書籍ばかりでなく、電子メール、新聞、雑誌、動画、音楽、ゲームなどが楽しめる。11月の韓国サムスンの「ギャラクシーTab」に続いて、12月にはシャープの多機能型情報端末「ガラパゴス」が発売され、ソニーの電子書籍の情報端末「リーダー」とともに日本の電子書籍市場は過熱し始めた。10年3月に講談社、集英社、小学館など大手出版社31社は、一般社団法人「日本電子書籍出版社協会」を発足させ、電子書籍市場への対応を整えた。また電子書籍の配信サービスを行う主要5グループが誕生した。これらのグループはそれぞれ通信会社、端末機器メーカー、大手出版社、通販サイト、印刷会社などと参加企業はさまざまだが、いずれも電子書籍市場でのシェア掌握を狙っている。
  - (藤竹暁:『情報・知識imidas』, 2011-02)

# 電子書籍とは？ (4)

- 電子書籍 electronic book
  - デジタル技術でできた「本のようなもの」。もともとは電子化された書籍データ、コンテンツをいうが、最近は本のように操作して読めるモバイル端末(リーダー)までを含めることが多い。1990年代からさまざまな実験や開発が繰り返されてきたが、現在はネットからコンテンツをダウンロードし、アマゾンのキンドル(Kindle)、アップルのiPad、あるいはスマホなどのモバイル端末で読むことが一般化している。
  - (現代用語の基礎知識, 2013)

# 電子書籍とは？ (5)

- **e-book**, in full electronic book
  - digital file containing a body of text and images suitable for distributing electronically and displaying on-screen in a manner similar to a printed book.
  - E-books can be created by converting a printer's source files to formats optimized for easy downloading and on-screen reading, or they can be drawn from a database or a set of text files that were not created solely for print.
  - (by Arthur Attwell: Encyclopædia Britannica, Britannica Online Academic Edition)
    - <http://www.britannica.com/EBchecked/topic/1235205/e-book>

# 電子書籍とは？ (6)

- An electronic book (also e-book, ebook, digital book) is a text- and image-based publication in digital form produced on, published by, and readable on computers or other digital devices. E-books are presented visually or aurally, with the audio book as a precursor to, and limited exemplum of, electronic publishing's potential. Components other than text have been considered enhancements, including multimedia (sound, images, film/video/animated graphics). The e-book is a young medium and its definition is a work in progress, emerging from the history of the print book and evolving technology. In this context it is less useful to consider the book as object – as commercial object – than to view it as cultural practice, with the e-book as one manifestation of this practice.
  - Eileen Gardiner, Ronald G. Musto: “19. The Electronic Book”. Oxford Companion to the Books, Vol.1. Michael F. Suarez, H.R. Woudhuysen, Eds. Oxford University Press, 2010, p.164



# 電子書籍とは? (キーワードまとめ)

- 刊行物・出版物
- データ、コンテンツ、ファイル
- 画面
- 端末
- 携帯、PDA、PC
- オンライン
- ダウンロード
- 流通

# 電子書籍とデジタルドキュメント

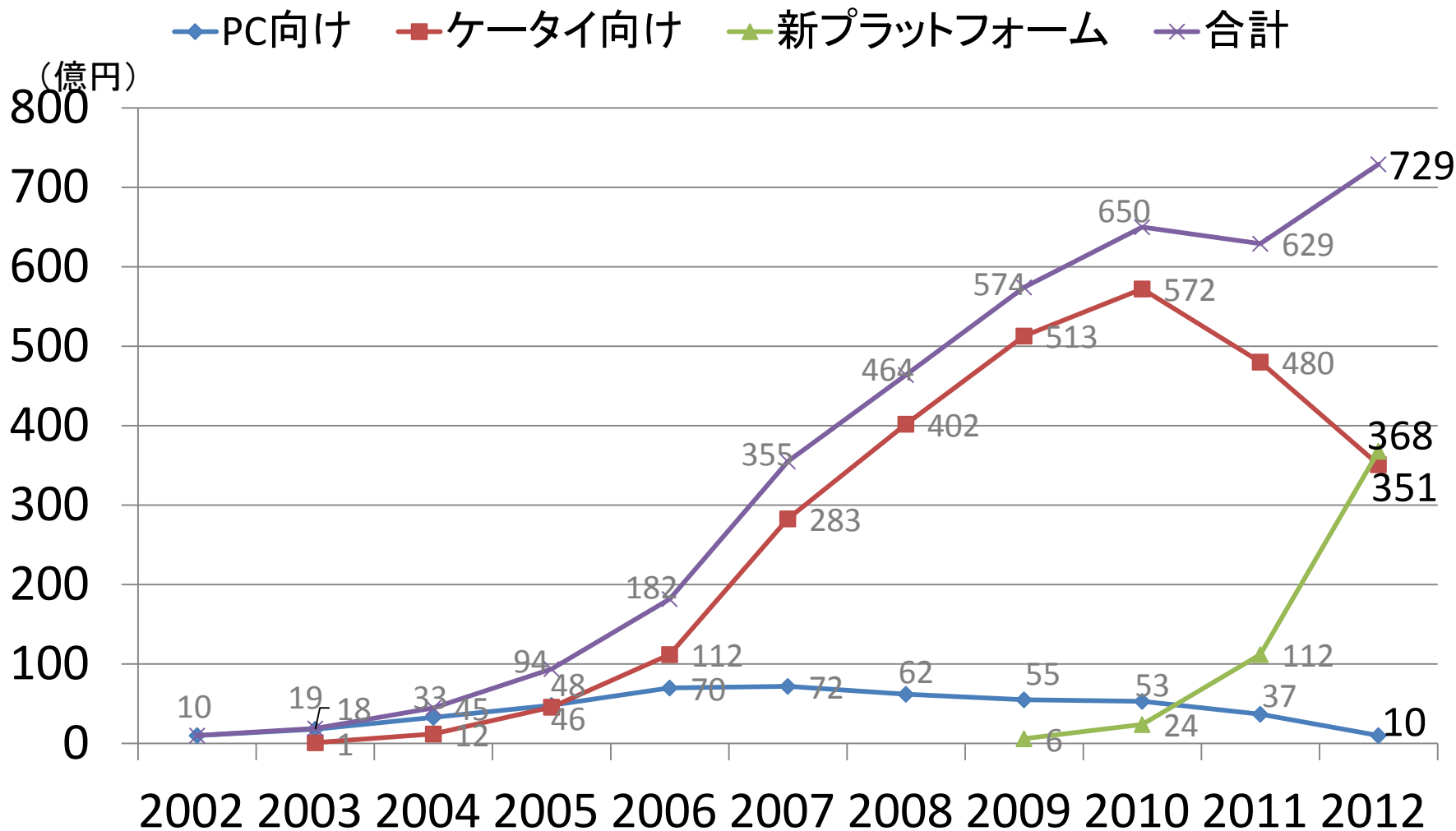
- 電子書籍はデジタルドキュメントの一例
  - おそらくは:「全体 – 部分関係」

## デジタルドキュメント

電子書籍

- では、何が違うのか?
  - パッケージ化されて届けられる(様式・慣習)
  - 情報コンテンツにたいして対価を支払う(原則として)

# 電子書籍利用の広がり (日本における市場規模)



出典：インターネットメディア総合研究所編. 電子書籍ビジネス調査報告書. インプレスビジネスメディア, 2013, p.26

# 「電子書籍」関連の出版点数 (CiNii Articles及びBooksから)

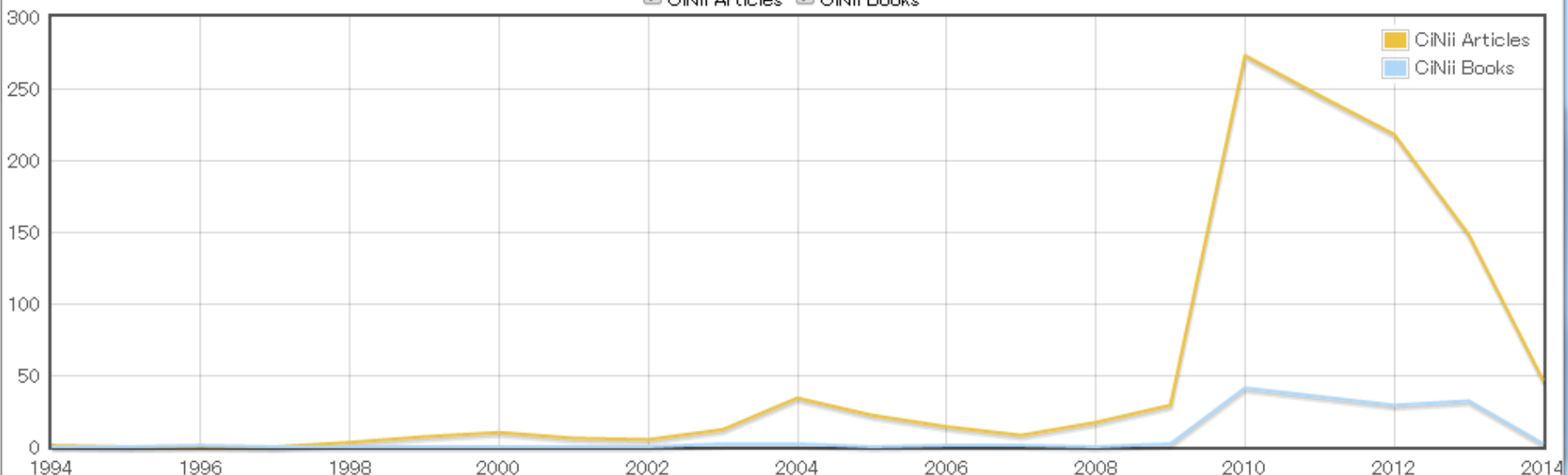
FuwattoTrend

BETA

電子書籍

Trend!

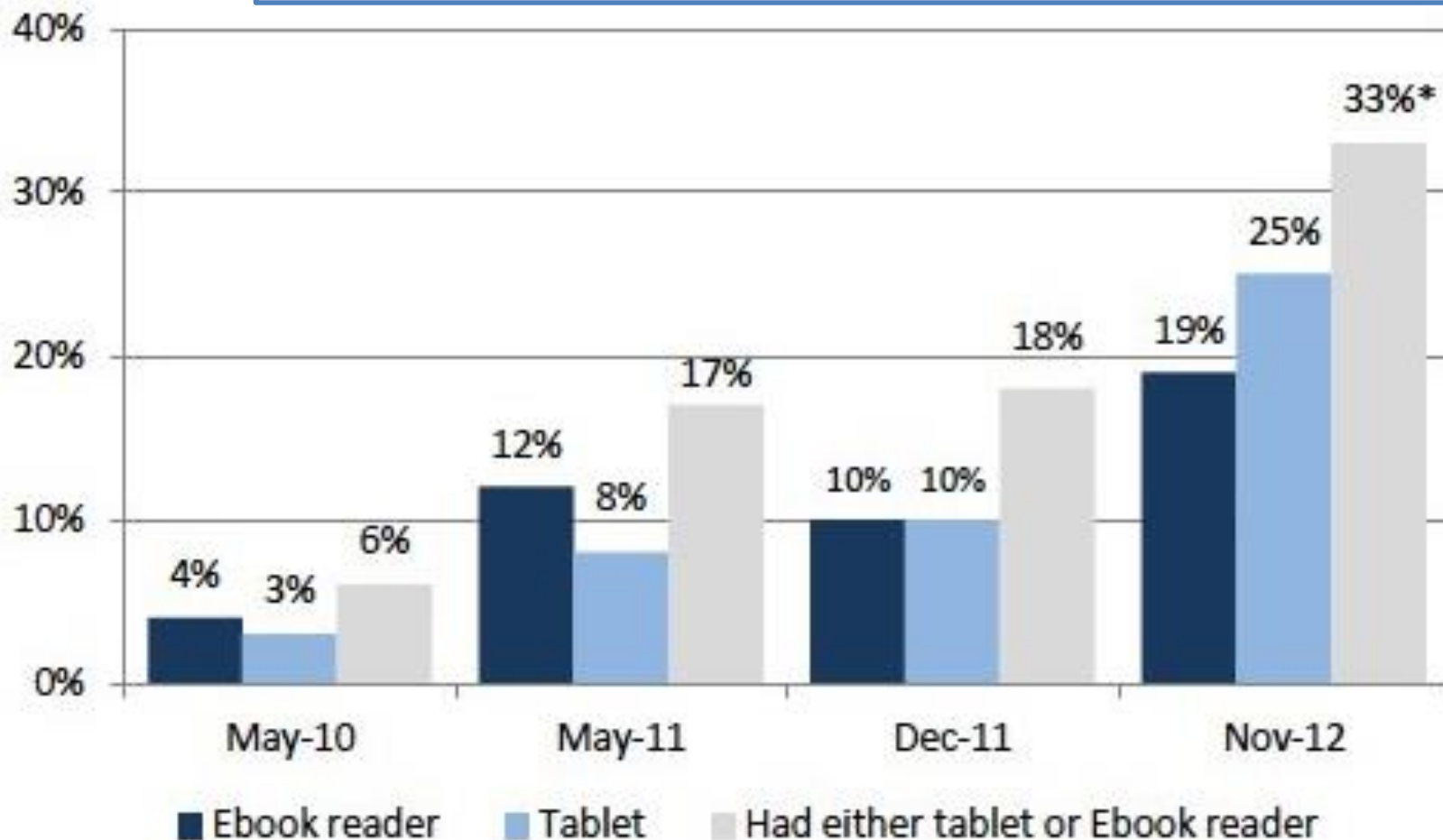
☒ CiNii Articles ☒ CiNii Books



<http://trend.fuwat.to/?q=%E9%9B%BB%E5%AD%90%E6%9B%B8%E7%B1%8D&target=ciniiarticles&target=ciniibooks>

# 電子書籍利用の広がり(米国)

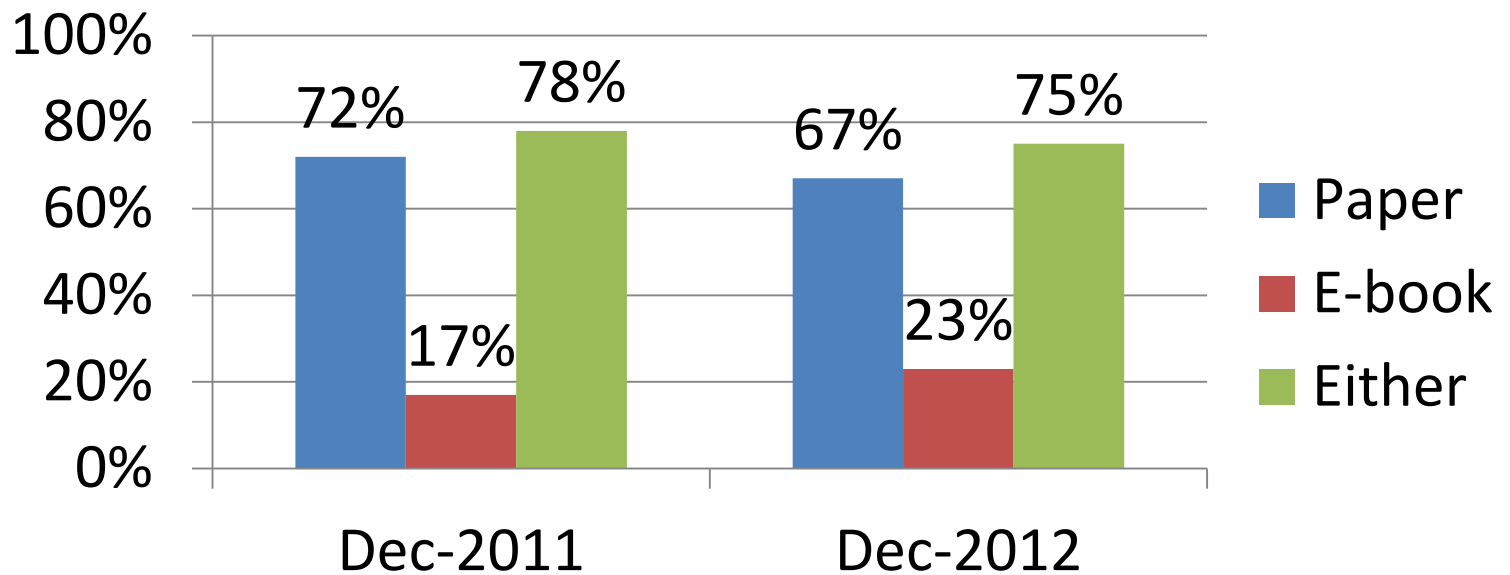
米国内において33%が電子書籍端末を保有



Lee Rainie, Maeve Duggan. "E-book Reading Jumps; Print Book Reading Declines". Pew Internet, 2012. <http://libraries.pewinternet.org/2012/12/27/e-book-reading-jumps-print-book-reading-declines/>

# 電子書籍利用の広がり(米国)(2)

- 米国内において75%が過去1年間の読書経験ありと回答
  - うち 89% が紙の書籍
  - うち 30% が電子版の書籍



# 電子書籍の歴史

- Electronic books; ebooks, E-books
- Memex (“As we may think”, by Vannevar Bush, 1945)
- Dynabook (Alan Kay, 1972)
- Oxford English Dictionary (1970s)
- 最新科学技術用語辞典 (三修社, 1987)
- 電子ブック (ソニー, 1991)
- デジタルブック (NEC, 1992)
- ほかに、電子本、電子出版(物)といったコンセプトによる商品、提案などがある。
- 電子書籍 (歌田, 1998)
- LIBRIe (ソニー, 2004), シグマブック (パナソニック, 2004)

# 電子書籍の歴史 (2)

- 電子書籍に向かう流れ
- 1970年代
  - 初期のテキスト電子化、辞書電子化の研究開発
- 1980年代～1990年代
  - CD-ROM等による電子出版、DTP
- 1990年代末
  - 書籍・本の電子化実験
  - オンライン配信含む
  - 電子書籍コンソーシアム
- 2004年頃
  - 電子書籍端末の発売
- 2007年頃～現在
  - Sony Reader (2006), Amazon Kindle (2007), Barnes & Noble Nook (2009), iPad (2010)



# 電子書籍の歴史 (3)

- 特に日本国内において：
  - 1990年代以来、何度か繰り返される「電子書籍ブーム」
  - 官民一体による研究開発
  - 閲覧機器の盛衰に伴う市場の伸長
  - ニッチ産業の勃興
  - 著作権処理
- 客観的にみると、日本は他国に比べ、大きな電子書籍市場が形成されている。
  - が、それらは一般書というよりは、ケータイ向けコンテンツ、電子辞書、コミックといった種別の書籍に特化した発展を遂げている。

# 電子書籍における閲覧環境と利用

- 3つの切り口
  - 閲覧機器(ハードウェア)
  - ビューワ(ソフトウェア)
  - コンテンツ
- 「パッケージ化されている」ことの意味
  - 新聞 - ニュース
  - 「ウェブ」と「電子書籍」の違い

# 電子書籍の事例

- 電子辞書
- Kindle
- Kobo
- Sony Reader
- iPad / iPhone
- Andoroid
- 電子コミック
- PDF
- 青空文庫
- プロジェクト・グーテンベルグ
- 近代デジタルライブラリー

専用フォーマット

電子書籍端末  
(専用機)

専用ビューア

PDF / EPub

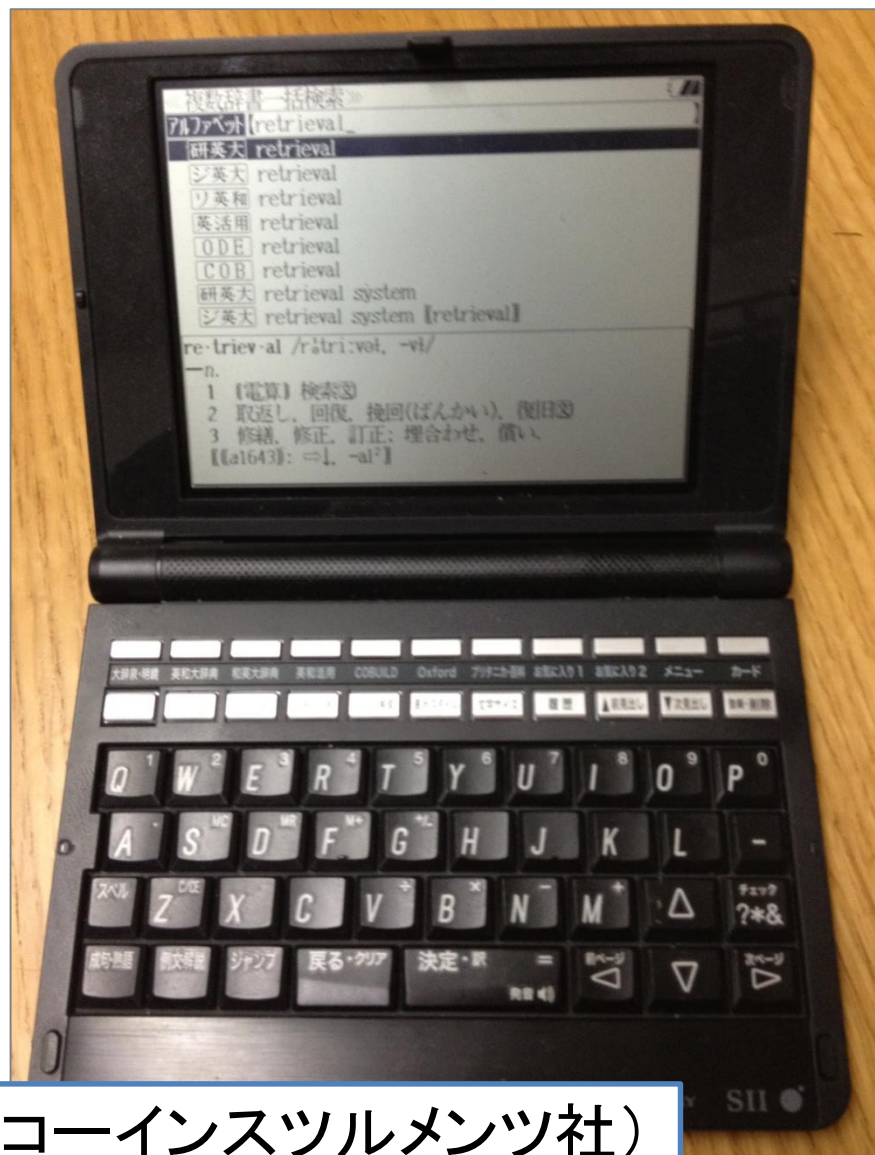
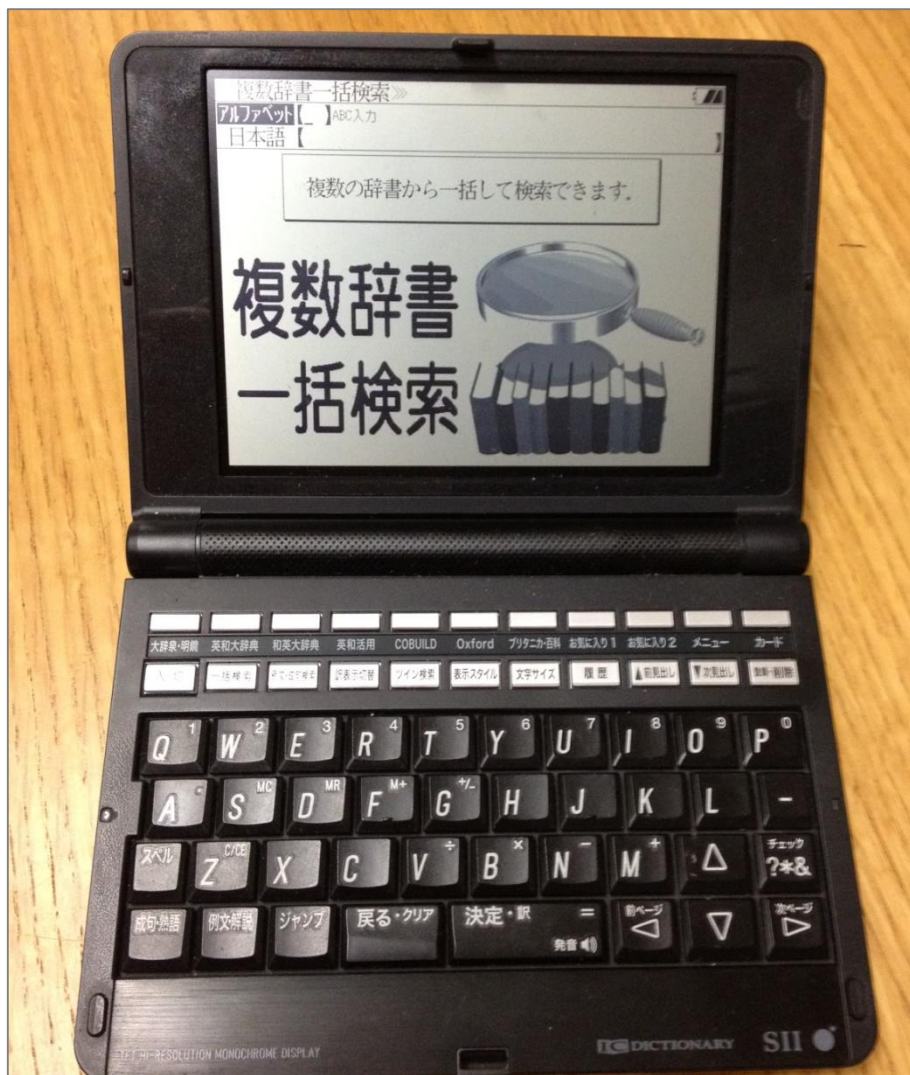
一般端末  
(汎用機)

ブラウザ

コンテンツ

Flash / HTML5

# 事例1: 電子辞書

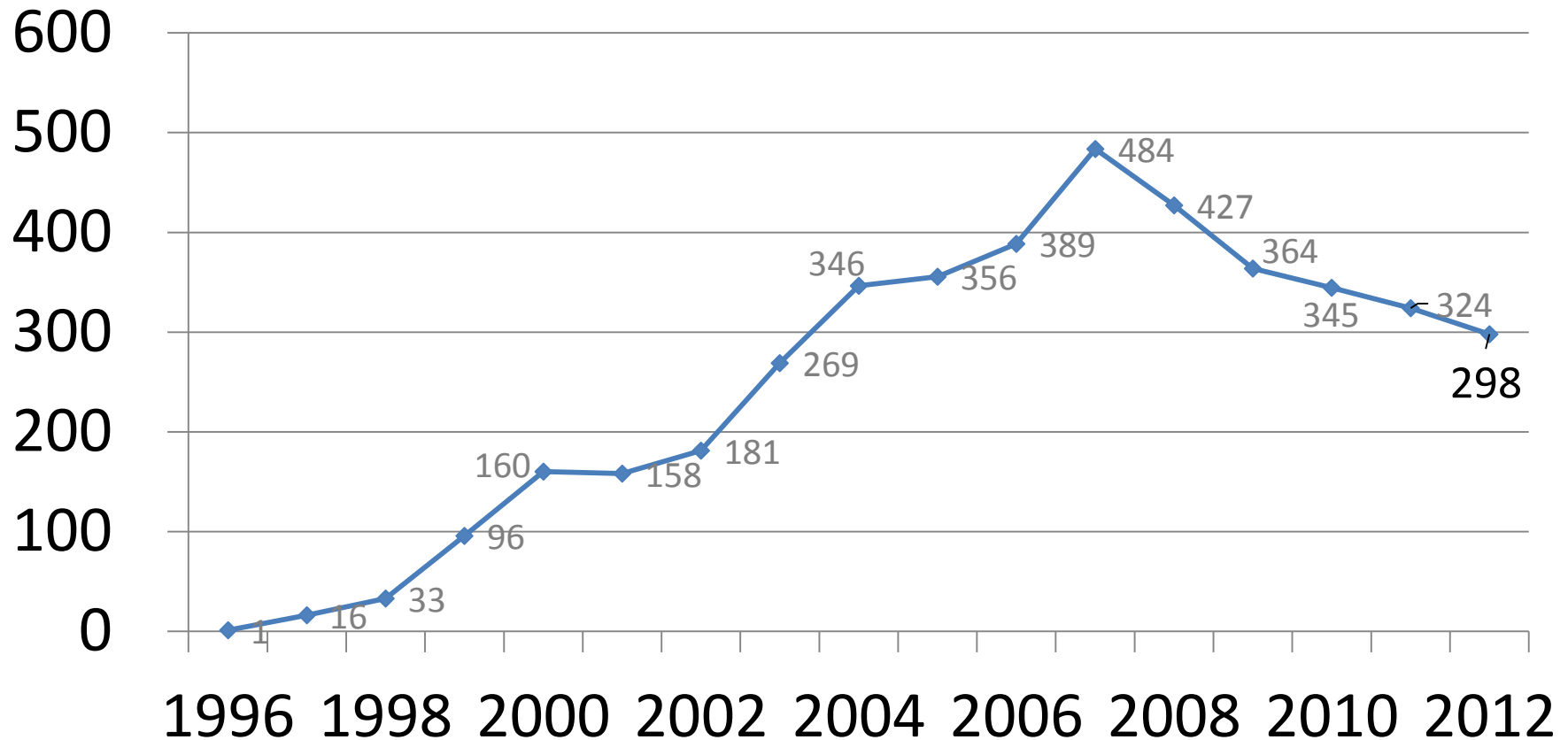


SR-G10000(セイコーインスツルメンツ社)

# 事例1: 電子辞書 (2)

- 最も古典的な電子書籍の種別
  - データの構造化が行いやすく、検索しやすいという電子版の特長に適している
- 1990年代末に携帯版の電子辞書端末が普及
- 携帯型専用機+専用検索ツールによる閲覧環境
- 機能
  - キーボード配置
  - 串刺し検索
  - 辞書コンテンツの追加・入れ替え等は限定的
  - 音声・画像等も挿入可能

# 事例1: 電子辞書 (3)

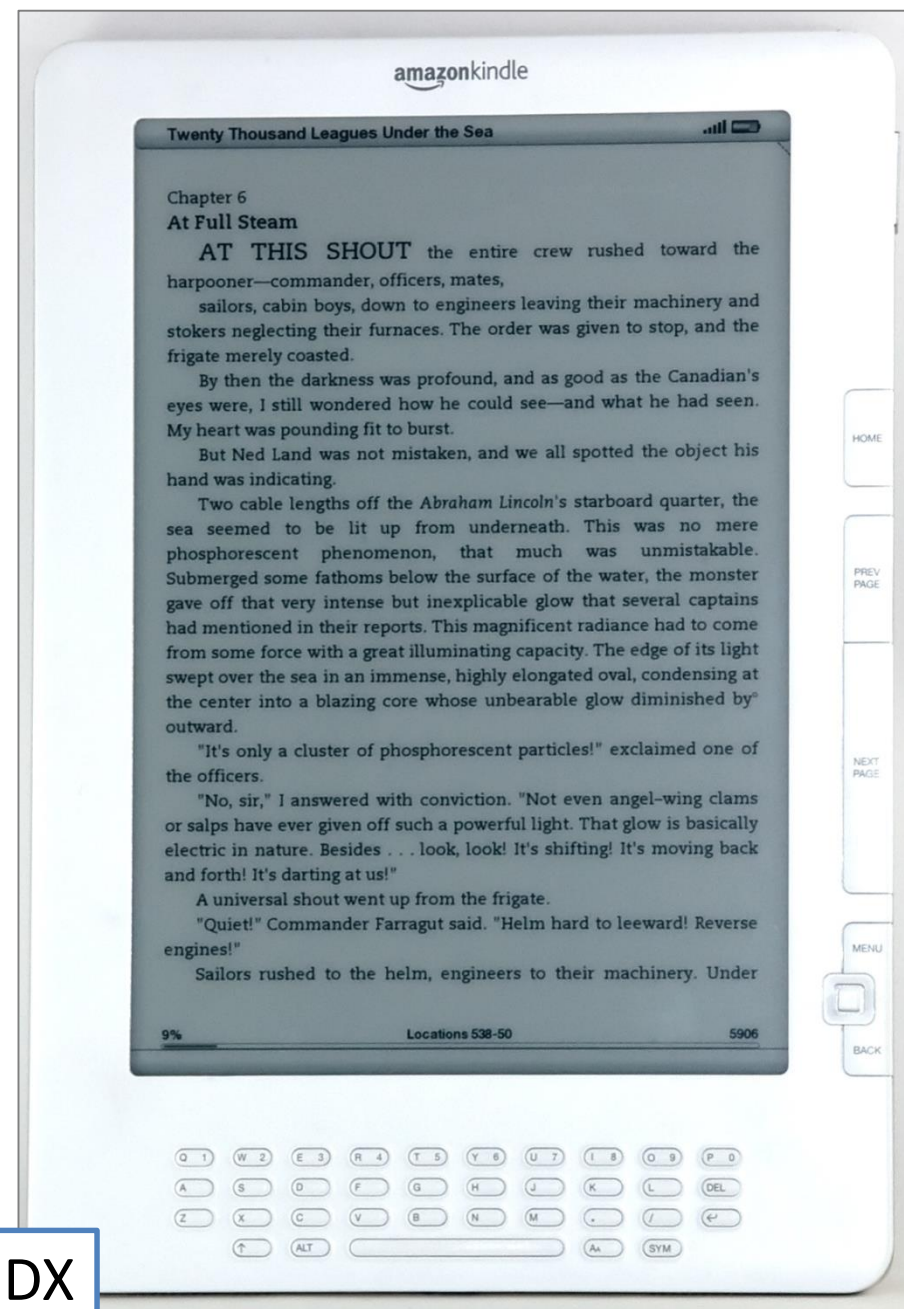


◆電子辞書の出荷額(億円)

出典:「電子辞書出荷実績推移(1996-2012年)」  
(ビジネス機械・情報システム産業協会)

# 事例2: Kindle

- アマゾン社によるオンライン書店連携型の電子書籍専用端末
- オンラインプラットフォーム連携型の端末として画期的な登場(2007年)
  - 電子ペーパーによる画面表示(Eインク)
  - データ通信機能内蔵
  - コンテンツのクラウド保存蓄積
  - オンライン書店を通じたシームレスな連携
  - 利用可能なコンテンツ
- 端末以外としてのKindleソフトウェアの提供も
  - iPad, PC - ブラウザ等
  - 端末間の同期

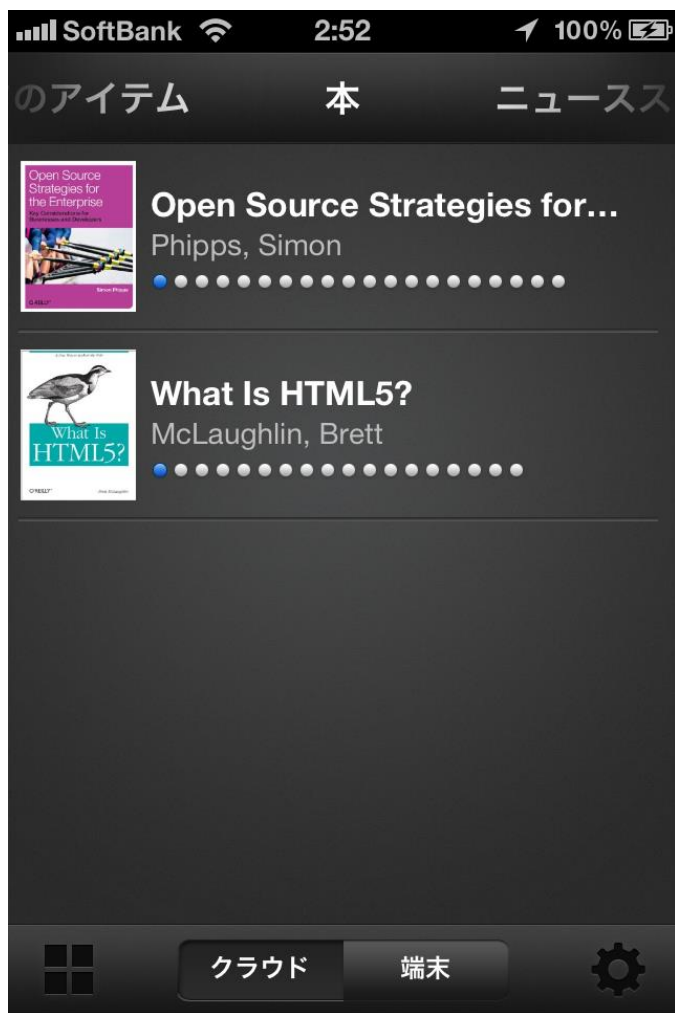


Kindle DX

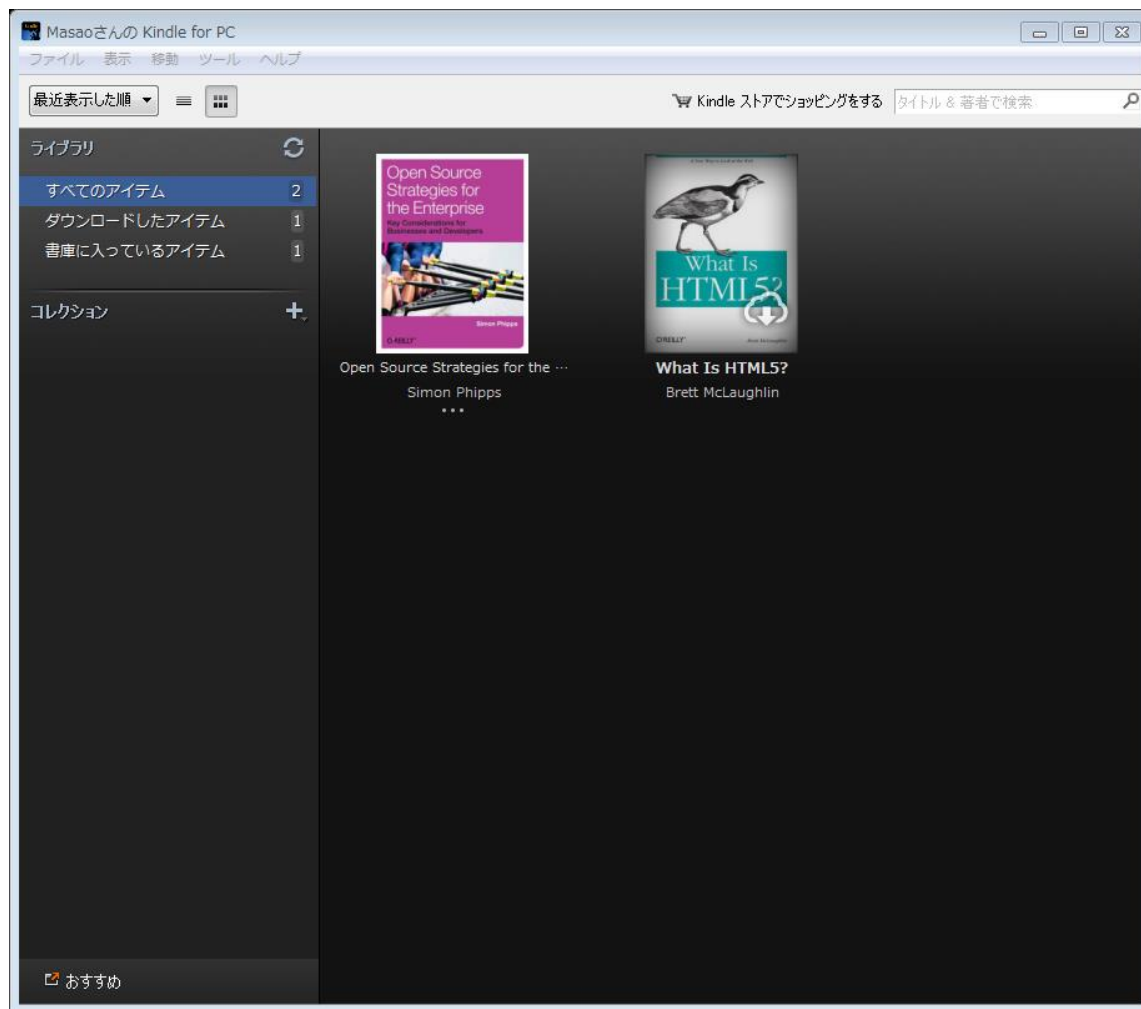
[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kindle\\_DX\\_Front.jpg](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kindle_DX_Front.jpg)



# 事例2: Kindle (2)



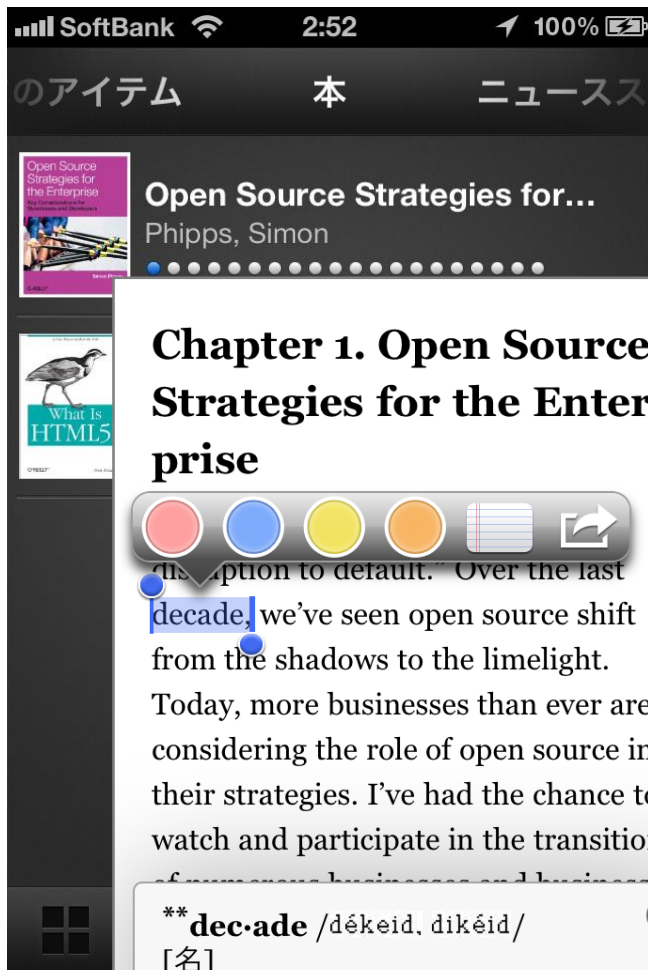
Kindle for iPhone



Kindle for PC



# 事例2: Kindle (3)



## Chapter 1. Open Source Strategies for the Enterprise

disruption to default.” Over the last decade, we’ve seen open source shift from the shadows to the limelight. Today, more businesses than ever are considering the role of open source in their strategies. I’ve had the chance to watch and participate in the transitions of numerous businesses and business

**\*\*dec·ade** /dékeid, dikéid/ ⓘ

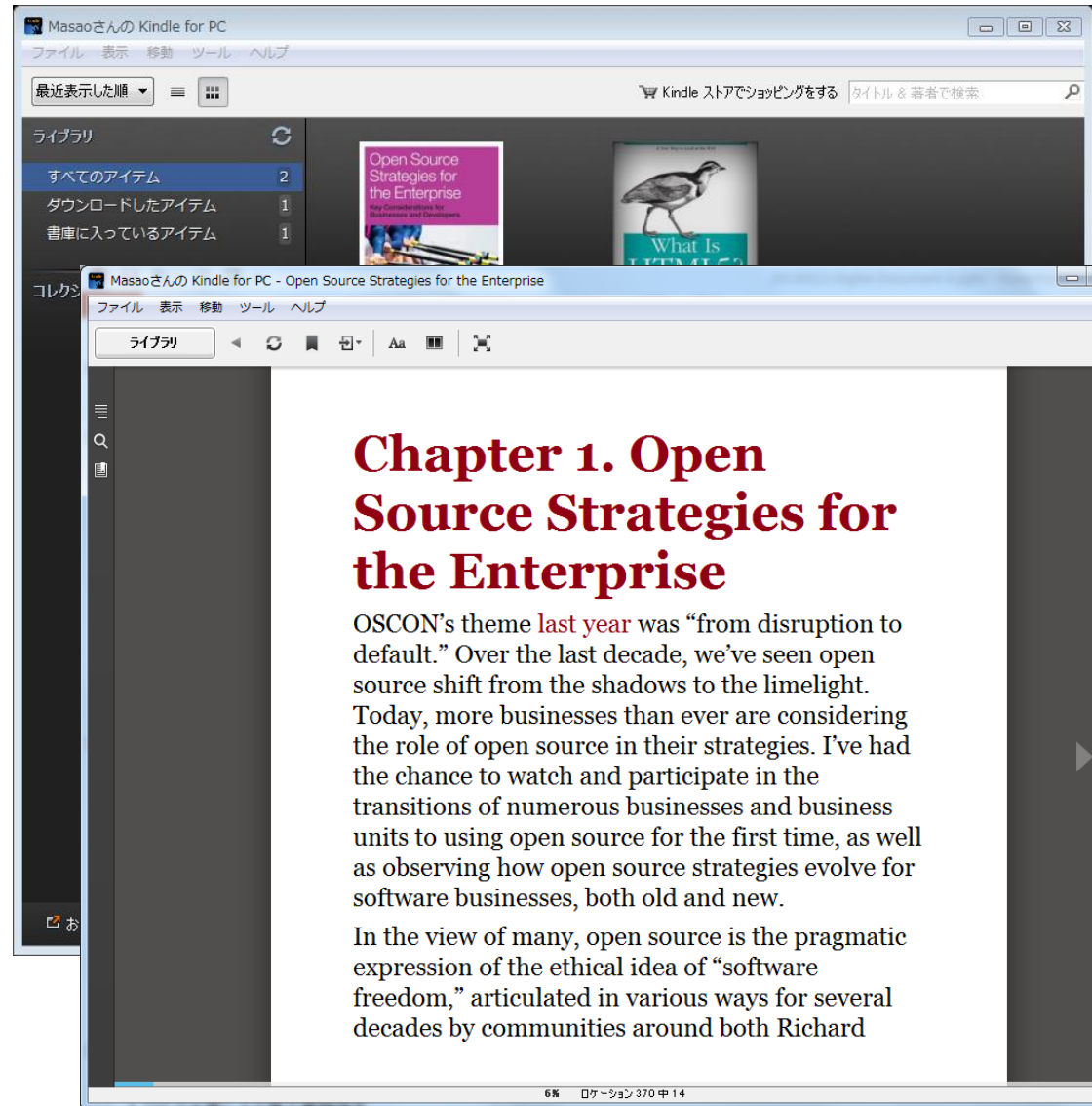
[名]

1 10年間 ¶the last decade of this century 今世紀最後の10年間 ¶for

[Google](#)

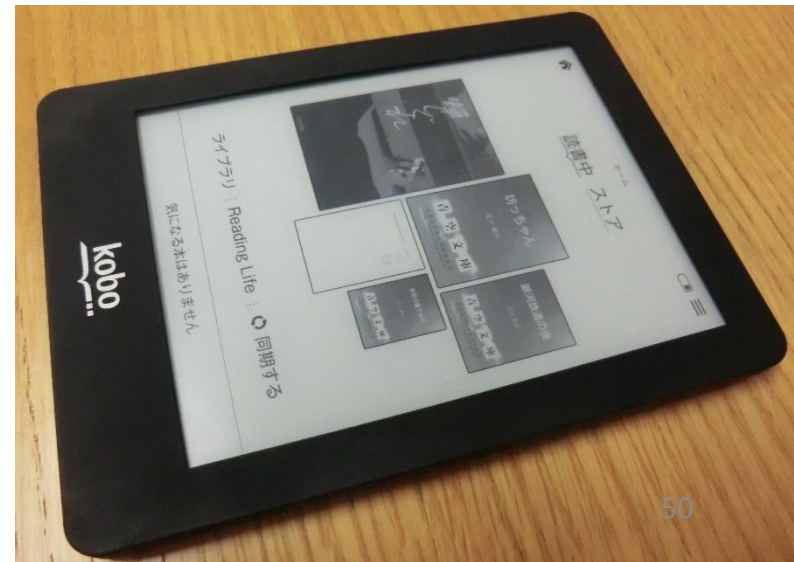
[Wikipedia](#)

[全文表示](#)

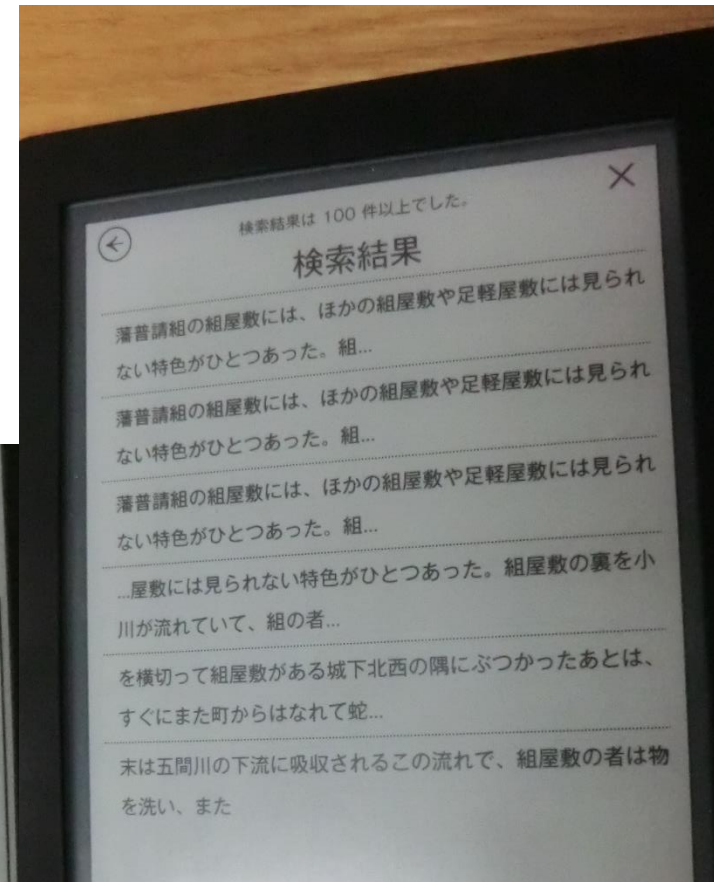
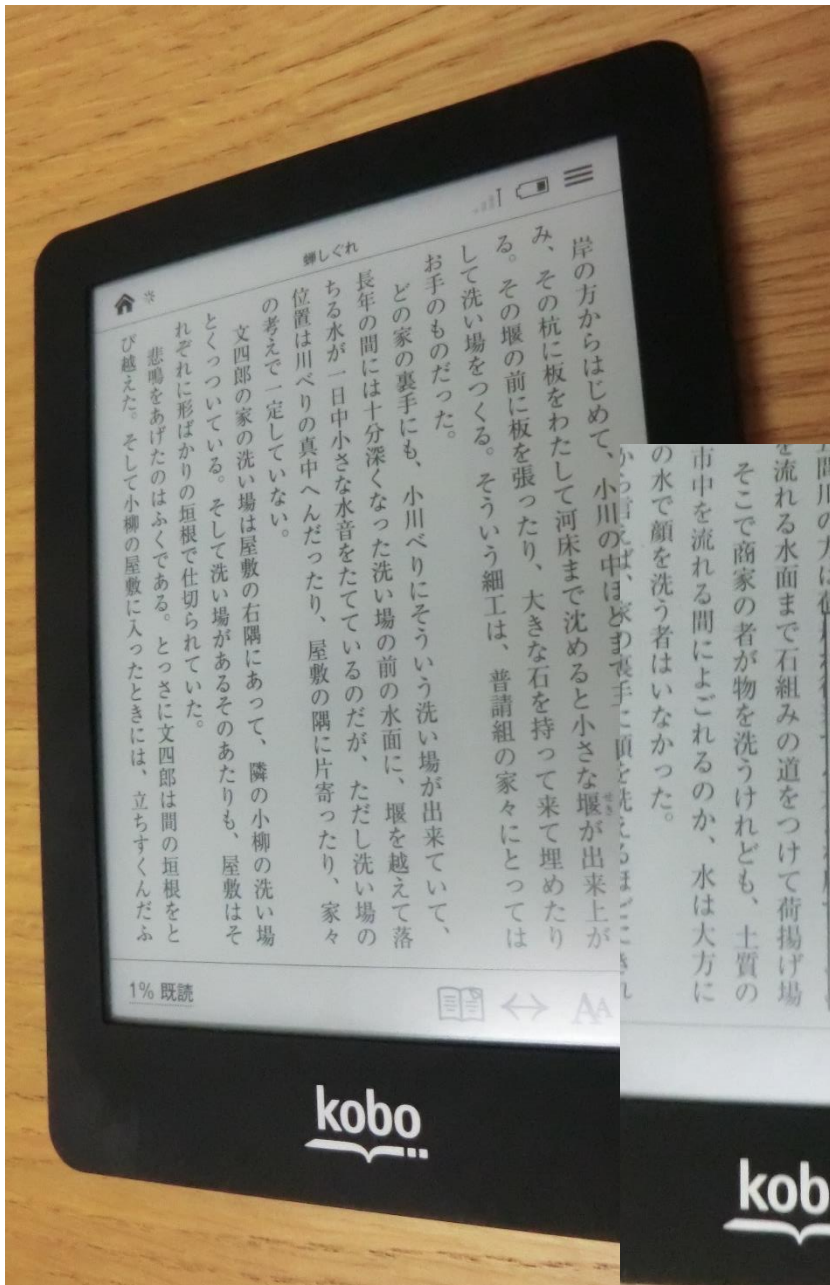


# 事例3: Kobo

- カナダ企業による電子書籍端末
  - 2012年に楽天が買収
- 楽天eブックストア連携による電子書籍
- 電子ペーパーによる画面表示(Eインク)
- コンテンツのクラウド保存蓄積
- データ通信機能
- 利用可能なコンテンツ
  - 約133,893点 (2013-05-16)



# 事例3: kobo (2)





# 事例3: kobo (3)

- <http://rakuten.kobobooks.com/>

The screenshot shows the Rakuten Kobo website interface. At the top, the logo "楽天 kobo" is displayed on the left, and navigation links "ホーム", "会員登録", and "ログイン" are on the right. Below the logo is a search bar with a "GO" button. A breadcrumb trail reads "楽天kobo > 楽天ブックス > 楽天市場". A teal navigation bar contains links for "電子ブック", "電子ブックリーダー", "無料アプリ", and "READING". Below this, a horizontal menu lists categories: "マンガ", "新刊・新書", "(小説 / コミック・漫画 / ビジネス / ラノベ)", "お笑い音楽", "ジャンル", and "基調の本". A promotional banner for "koboglo" highlights "文字サイズ自由自在" and "持ち運びにも便利". Another banner promotes the "kobo" app for iPhone/iPad, offering a "最大94%引き" discount. A three-step guide is shown: "Step 1 電子書籍を購入" (with a "購入する" button), "Step 2 読む端末を選ぶ" (listing Kindle, Kobo, and others), and "Step 3 ログインして読む". A large blue button on the right says "すぐログインして新しい読書生活をはじめましょう". Below the guide, a row of book covers is displayed, including "アスキー", "カゲロウプロジェクト", and others. The bottom of the page features a dark navigation bar with links like "よくある質問" and "お問い合わせ".

# まとめ

- 電子書籍とは何か？
- 電子書籍の歴史とその意義
- 電子書籍の閲覧環境
  - 閲覧機器、ビューア、コンテンツ
- 事例を確認しながら、それぞれの特徴を考えてみた
- 次回は、さらに詳しくドキュメントフォーマット及び最近の動向について考えてみたいと思います

# 参考文献

- 野村総合研究所. 2015年の電子書籍: 現状と未来を読む. 東洋経済新報社. 2011, 194p.
- 湯浅俊彦. 電子出版学入門: 出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ. 改訂3版. 2013, 142p.
- 特集: 電子書籍の未来. 情報処理. 2012, Vol.53, No.12, p.1254-1286.